

目的 演者らは、アンケート調査ではなく課題遂行形態の実技調査によって食事作りに必要な知識・技能とは何かを明らかにしようとしている。特に能力が低いとみられる男性の食事作りの行動を調べることによって前述の目的にせまることができるものと考えられる。前回では食事作りのうち調理操作を中心に報告してきたが、今回は調理操作の順位性と同時性を中心に報告する。

方法 調査対象は本学学生男女各々10名、調査時期は昭和59年4月、昭和60年11月である。調査方法は、3人分の夕食をつくることを想定し対象者の買物および調査中の操作を記録者が記載したものを集計し男女比較を行った。

結果 ①調理操作をフローチャート化して『切る』操作の出現状況を順位性でみた場合、男性は女性に比べ全工程中に広がっており、人によって出現が異なった。②食材と『切る』操作の関係は、タマネギ、人参等の『切る』操作の後に別の操作のくるものの使用は女性が多く、『切る』操作も全工程中で比較的早く現われた。逆に男性は『切る』操作のみの、つまり料理の飾り等になるトマトの出現が比較的多く調理操作の終り近くに出現した。③フローチャート化した調理操作をさらに図式化し調理操作の同時進行情況をみたところ、女性が同時進行で調理をするのに比べ、男性は主なる調理に力点がおかれ同時進行は少なかった。